



園だより

文京区立第一幼稚園
令和4年度9月号

URL <http://www.bunkyo-kyo.ed.jp/dai1-kg/>

心が動く体験をつなげて

園長 田村 秀子

朝晩の涼しい風と虫の声に秋の訪れを感じる頃となりました。今日から2学期が始まり、久しぶりに子供たちと会えて嬉しく思いました。少し恥ずかしそうな子や嬉しくてたまらないという表情の子など様々でしたが、キラキラした瞳から、家で元気に過ごせたこと、幼稚園を楽しみにしていたことがよく分かりました。これから子供たちの話を聞いたり、絵を見せてもらったりするのが楽しみです。2学期も感染予防対策を継続しながら、子供たちが園で安心して過ごし、様々な遊びや活動を通して学び合い、育ち合っていけるよう、教職員皆で力を合わせてまいります。よろしくお願いいたします。

さて、1学期末には、学年ごとに「わくわくアート」の活動を行いました。広くて涼しい遊戯室で、年少組と年中組はフィンガーペイント用の絵の具を先生がプレートに少しずつ垂らし、指で触ったり、手の平で触ったりして感触を味わい、見立てたり色を混ぜて変化を楽しんだりしました。年長組はローラーに絵の具をつけて、大きな長い紙にローラーを走らせ、模様を描いて遊んだり、スチレン板に絵を描いてスチレン版画を楽しんだりしました。わくわくアート委員やボランティアの保護者の方々が、絵の具を写し取った紙を周囲に飾ったり、用具の後片付けをしてくださったりして助かりました。

初めは緊張していたお子さんも、先生や友達の楽しそうな姿に刺激を受け、いつの間にか自分から取り組み、楽しそうに遊んでいました。ぐるぐると指で描いた形や偶然できた模様を何かに見立てたり、色の混ざり具合がきれいな場所を発見したり、絵の具を塗りたくった自分の腕を見て喜んだりなど、一人一人様々な気づきがあったようです。最後は水を汲んだタライの中で手足を洗い、靴下と靴を履いて、満足した顔で保育室へ戻っていきました。着替えも自分で頑張ったようです。

絵の具という素材と出会い、感触を楽しみ、自分なりに見立てたり友達とイメージを共有したりして楽しい時間を過ごした子供たち。心が動く時には集中し、のめり込んで遊びます。その体験が集中力を育んでいきます。遊んだ後の身支度の仕方を知り、自分で最後までやり遂げることも学びました。

幼稚園教育要領の「3 指導計画の作成上の留意事項」には、「幼児が様々な人やものとの関わりを通して多様な体験をし、心身の調和のとれた発達を促すようにしていくこと。その際、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現するようにするとともに、心を動かされる体験が次の活動を生み出すことを考慮し、一つ一つの体験が相互に結び付き、幼稚園生活が充実するようにすること」と書いてあります。

今回の楽しかった体験は次の活動を生み出し、主体的・対話的に環境に関わる姿や遊びの中で自分なりに見立てたり試したりし、気付いたことを伝え合い学び合う姿へとつながっていくことでしょう。

2学期には秋の自然と出会う遊びや体を思い切り動かす遊び、楽しかったことを表現する遊び、友達と目的をもって進める遊びや活動、園の皆で一緒に楽しむ活動、園外へ出かける活動など、様々な遊びや活動を計画しています。一つ一つに子供たちが主体的・対話的に取り組み、体験を自分たちのものにしていけるよう、日々の環境を工夫し、先生と子供たちとで遊びを振り返りながら、自分たちの生活を自分たちで楽しくしていくことを学べるようにしていきたいと思えます。